

大雨災害

登別市は、過去に大雨で大きな被害を受けました。これは太平洋からきた雨雲が、オロフレ山系に集積し大雨を降らせたことと、急傾斜地や河川が多いことも原因といえるでしょう。

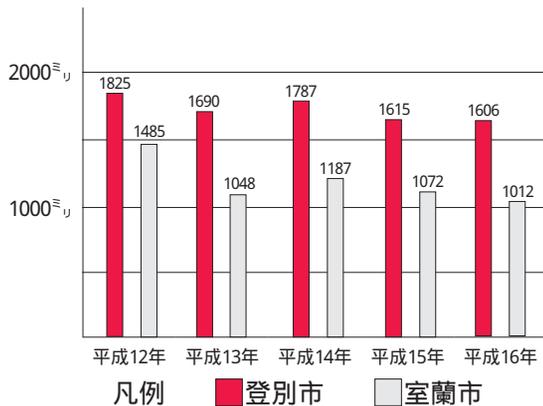
室蘭市と過去5年間の年間降水量を比べると、例えば、平成16年では室蘭市が1千12ミリに対し登別市が1千606ミリで、登別市は降水量の多い地域といえます。大きな被害を受けた昭和58年は2千552ミリの降水量がありました。

近年は、河川改修や治山事業などの整備が進められ、雨による大きな被害は発生していません。しかし、またいつ集中豪雨が襲ってくるかわかりません。いざという時に備えて普段から、避難所の確認や非常持ち出し品などを備えておきましょう。



昭和58年中央町

登別市と室蘭市の年間降水量の比較



大きな被害を受けた大雨

発生日月	雨量	被害内容
昭和36年10月6日	総雨量平地300 ^{mm} 、山間部600 ^{mm}	死者4人、行方不明者7人、全壊家屋20戸、流失家屋27戸、半壊家屋17戸、床上浸水1,009戸、床下浸水3,218戸など
昭和55年8月29日~31日	総雨量555 ^{mm}	重傷者1人、軽傷者5人、全壊家屋14戸、半壊家屋11戸、一部損壊16戸、床上浸水538戸、床下浸水1,195戸など
昭和58年9月25日	総雨量508 ^{mm} (3時間雨量338 ^{mm})	軽傷者1人、全壊家屋4戸、半壊家屋14戸、一部損壊12戸、床上浸水540戸、床下浸水312戸など

地震から身を守る

室蘭地方気象台で観測した最大震度は、昭和43年の十勝沖地震と『平成5年の北海道南西沖地震』の震度4です。

突然の大きな地震から身を守るため、家具の転倒防止などの安全対策を行い、非常持ち出し品はすぐに持ち出せる場所に用意しましょう。火災は被害を大きくします。グラツときたらまず消火、そして避難所に行くときにはガスの元栓を閉め、ブレーカーを切って避難しましょう。また、家族がバラバラに行動して

津波から身を守る

太平洋に面する登別市は、津波による被害が懸念されます。市内で観測している津波は、昭和35年に発生したチリ沖地震の50分の1の記録が残っています。白老町は3分、苫小牧市は1.9分の記録が残っています。

これは、登別の海岸は直線であることや等深線から波が分散し広がる地形となっていることが原因しているといわれています。また、十勝沖で津波が発生した場合も、えりも岬が防波堤になり被害が小さくなるともいわれています。

いる時に地震が起こることもあります。家族の集合する場所を決めておくことも大切です。



しかし、大きな津波が発生しないとはいえないかもしれません。もしもの時は、海岸線や河川の近く、低地に住んでいる方は、高台に避難しましょう。

